

LETTER FROM COPENHAGEN
コペンハーゲン通信 PART VII
7



デンマーク王国 DATA

人口582万人、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



ターフハウスという芝葺きのサマーハウス



運河沿いで、日光浴、水泳、カヤックを楽しむ人々



小林 功人

在デンマーク日本大使館二等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

自然の中で過ごすデンマークの夏

デンマークでの夏季休暇期間は6月最終週から8月上旬で、デンマーク人は2～3週間の休暇を取ります。こちらの学校では宿題が課されないため、子どもたちは夏休みを丸ごと、家族や友人との旅行やレジャーなどに充てることができます。ただし今年は、新型コロナウイルスによる各種規制の影響で国外旅行を控える国民が増えました。国民のデビットカード利用総額のうち、デンマーク国外での利用額が2019年の15%から、今年は6%へと落ち込んだというデータからも明らかでした。一方、デンマーク国内の豊かな自然を活かしたアクティビティに注目する機会にもなりました。私にとっても、赴任国デンマークの隅々にまで目を向ける良いきっかけになりました。この夏、私自身も楽しんだデンマークの夏の過ごし方をご紹介します。

一つ目は、デンマーク人の代表的な休暇の過ごし方である、サマーハウス滞在です。今年はコロナの影響で、滞在日数が例年の1.5倍に増加したといわれています。私も週末を利用して、首都コペンハーゲンのあるシェラン島の南に位置するファルスター島の沿岸にあるサマーハウスに宿泊しました。大きなテラスにテーブルセット、そしてBBQ用グリルまで完備した広大な庭付きの戸建てを手軽に借りることができました。この家は、ターフハウス(turf house)といわれるスカンディナヴィア地方の伝統的な芝葺き屋根の

家屋で、高い断熱性能と耐風性能を兼ね備えています。家庭菜園として屋根にハーブを植え、屋根に上って収穫するという家庭もあるそうです。

次に、コペンハーゲン市内に張り巡らされている運河での水泳、ボート、カヤックなどのアクティビティも人気です。天気の良い日の運河沿いは、短い北欧の夏の太陽を満喫しようと日光浴をする水着姿の人で溢れ返っています。そして水の上では、時間単位で手軽にレンタルできる小型ボートで家族や友人と宴会に興じたり、カヤックなどで涼を取る人を数多く見かけます。

日本では、新型コロナウイルスによる規制の影響で、三密を避けたキャンプの人气が高まっていると見聞きしますが、この場をお借りして、デンマークと日本の地方との間でのプロジェクトを一つご紹介いたします。2021年、三重県いなべ市に、日デンマークの官民が協働したアウトドアフィールド「Hygge Circles Ugakei by Nordisk」が開業します(在日本デンマーク大使館、宇賀溪観光協会、デンマークの建築会社サードネイチャーおよびヘンリックイノベーション、日本のエンジニアリング会社ストラクチャードエンバイロメントによる)。

日本の自然とデンマークのHygge(ヒュッグ。家族や仲間たちとゆったりとした時間を過ごすこと)がコラボしたプロジェクトが、自然という観光資源を活かしたポストコロナの地方創生の一助となることを期待しています。